

(社)日本地すべり学会東北支部 「第17回総会」参加報告

土木地質(株) 相澤 秀樹

地すべり学会東北支部「第17回総会」が下記の内容で盛会の内に開催されました。

日時:平成13年6月1日(金)13:00~17:30

参加者:130名

会場:東北学院大学 土樋キャンパス

*特別講演会

1)「東北地方の地すべり地形とカルデラの形成」

(財)深田地質研究所 大八木規夫氏

2)「地すべり地形分布図作成作業とその展開」

防災科学技術研究所 井口 隆氏

*地すべり発表討論会

「地すべり安定解析用強度決定法について」

---東北支部・地すべり安定解析用強度決定法委員会中間報告---

1.東北地方の地質と地すべり履歴

奥山ボーリング(株) 阿部真郎氏

2.すべり面判定

国際航業(株) 高見智之氏

3.安定計算における c, ϕ の位置づけ

日本大学工学部 梅村 順氏

4.せん断強度測定技術

国土防災技術(株) 山崎孝成氏

5.強度決定法

基礎地盤コンサルタンツ(株)

平田晴昭氏

定期総会は、副幹事長・千葉則行氏の進行で支部長・盛合禧夫氏の挨拶により始まった。

議事は第1号議案から第4号議案、報告事項及び支部規定の改正案を含めて満場一致で採決された。平成13年度事業として、恒例の地すべり現地検討会の会場が、10月24、25日、宮城県「小原・赤坂地すべり」に決定したこと、新企画として「地すべり・重力的不安定斜面判読技術講習会(7~9月)」を検討中であることなどが報告された。

定期総会后、副支部長・宮城豊彦氏が座長を務め、大八木氏と井口氏による特別講演会が開催された。

大八木氏の「東北地方の地すべり地形とカルデラの形成」は、澄川温泉地すべり、奥入瀬、川舟断層、三途川カルデラなどの事例について、カルデラ火山の分布図や地質図、地すべり分布図のスライドを用いて説明がなされた。東北地方、特に奥羽脊梁近辺には、後期中新世以降に形成されたカルデラ火山が多く分布し、カルデラ火山の周辺部で地すべり発生している事例が多い。その要因のひとつとして、かつてのカルデラ湖に堆積した軟質な湖成層の存在をあげた。上位層の岩屑や火砕流堆積物の荷重で縁辺に移動したり、縁辺斜面が開析されることにより不安定化し、地すべりを誘発すると見解を示し、カルデラと地すべりが密接な関係にあると述べられた。

次に、井口氏が「地すべり地形分布図作成作業とその展開」について講演された。作成方法と留意点・問題点から始まり、今後の展開・課題について、スライドを通じて説明がなされた。作成法は、空中写真上に書き込み、これを地形図に転写する。問題点としては、判読水準の客観的評価が困難であることや、表示・凡例の統一などがあげられた。今後、より多くの方々に有効に使用され、地すべり地形の啓蒙・普及に役立つことを目指しており、防災科学技術研究所のサーバーからインターネットを活用して世界のどこからでも「地すべり地形分布図」が閲覧でき、地すべりに対する情報交換ができるように展開していくことであった。課題としては、ハザードマップ化、3D化、地すべり履歴の入力、多様な斜面災害データとの結合、地すべりデータのシームレス化などをあげられた。

地すべり発表討論会は、東北支部・地すべり安定解析用強度決定法委員会の中間報告というかたちで、岩手大学・大河原正文氏を座長として開催された。

